

NIE の実践 4 年目の実践のまとめ

鹿屋市立西原小学校

1 はじめに

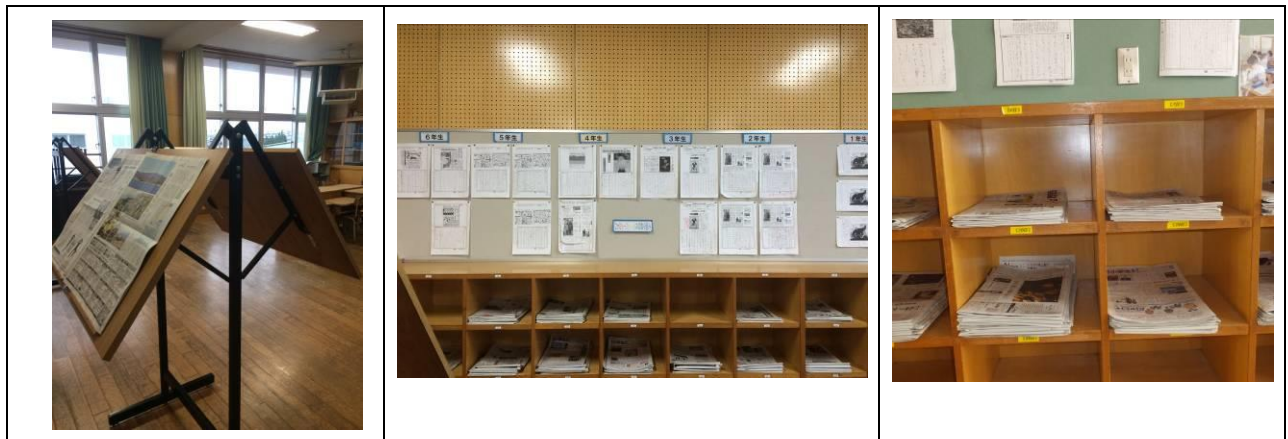
本校は，鹿屋市の中心部に位置し，児童数 5 6 0 名（H28.1 月現在）の学校である。

平成 2 4 年度より日本新聞協会より N I E の実践指定校を受けて研究に取り組み，今年度はその 4 年目にあたる。

2 実践内容

(1) N I E ルームの活用

実践 2 年目から「N I E ルーム」を設置し，閲覧台や新聞ストッカー，机や椅子を配置し，新聞を活用した学習が展開できる環境を整備している。N I E ルーム内は，子どもたちのファミリーフォーカスの作品，子どもたちに読んでもらいたい新聞記事などを掲示し，いつでも子どもたちが入ってきて新聞を読めるようにした。また，教室の後方の棚には今月分の新聞を日付ごとに保存し，前月分をストッカーにまとめ，それ以前のものは廊下に保管することで，気になる記事をさかのぼって見つけれられるようにしてある。



N I E ルームは 2 棟ある校舎の片方の校舎の 3 階にあるため，新聞に触れる機会に学年で偏りがある。そのため，多くの児童が新聞に親しむことができるような手立てを考えた。その 1 つとして，多くの児童が利用する靴箱近くにその日に配布された新聞の 1 面（4 紙）をコピーして掲示した。配布される新聞は毎月同じものではないが，小学生新聞も 1 紙はあるため，低学年でも関心をもって見ていた。他の新聞も，記事の内容は分からなくても，一面に掲載されている写真などに興味を示し，時事問題に触れることができていた。

また，校内の他の掲示板上には，毎月購読している南日本新聞の「南風録」「ミナミさんちのクイズ」「4 コマ漫画 薩摩剣士隼人」を切り抜き掲示している。さらに，週に 1 回掲載される「オセモコ」も子どもたちの興味を引く内容が多く使われているため，それもコピーして掲示している。休み時間などに立ち止まって見ている子どもたちも多い。



(2) 新聞委員会としての児童の取組

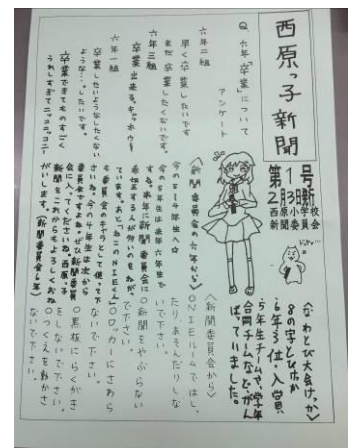
児童会の新聞委員会としても様々な取組をしている。

1つ目は、新聞閲覧台への新聞の取り付けである。毎日届けられる4～5社の新聞を閲覧台へ取り付け、前日までの新聞を新聞保管棚へ整理していく。新聞の取り付けは曜日ごとに、新聞保管棚も日付ごとに担当を決め、NIEルームをきれいに整理できるようにした。



2つ目は、1年目から継続して行っている「喜怒哀楽コーナー」の取組である。「喜・怒・哀・楽」の4つのテーマに関連した新聞記事を選んで感想を書いて校内に掲示した。毎月、子どもたちが自分たちで記事を見つけ、全校の子どもたちに読んでもらえるように考えて感想を書いていた。

3つ目は2年前から取り組んでいる「西原っ子新聞」の作成である。新聞作成担当者が新聞の内容を話し合い、児童会活動や学校行事の様子、自分たちが取材した内容などを掲載し発行した。作成した新聞は各学級へ配布し掲示してもらった。



これらの取組を通して、委員会の児童が新聞を詳しく読むことになるだけでなく、多くの児童が色々な形で新聞にふれることができるようになった。

(3) ファミリーフォーカスの取組

「ファミリーフォーカス」については初年度から継続して取り組んでいる。学級通信等で保護者へ協力を依頼し、全学年で年間4回程度（6月，8月，11月，2月）取り組んだ。（1年生は8月からの実施）内容はそれぞれの学年で児童の実態等を考慮し，取り組んだ。

《実践例》

下学年… 四コマまんがのセリフを考えたり新聞の写真や記事などから自分の思いを膨らませたりする。

中学年… 学年で統一した記事を取り上げ，その記事に対しての自分の思いを書いたり，家族で話し合ったりする。

高学年… 自分で興味をもった記事に対して，自分の思いを書いたり家族で話し合ったりする。

新聞を購読していない家庭も多く，普段親子で新聞記事などについて話し合う機会が多くないが，ファミリーフォーカスに取り組むことで親子で新聞を読み，コミュニケーションをとるいい機会となった。

(4) 新聞を活用した授業の実施

① 2年生の実践 創意「新聞に親しもう」

ねらい… 様々な新聞に親しみ，今後新聞を読みたいという意欲を高める。

低学年では，新聞への興味をもつことをねらいとして学習に取り組んだ。自分た

ちでも読めるような記事があることに気付かせるよう、一般紙に加えて子ども新聞も用意した。また、新聞を使ったゲーム（「の」の字さがしゲームなど）をすることによって、様々な新聞活用法があることを実感させることができた。

② 3年生の実践 国語「しりょうから分かる、小学生のこと」

ねらい… 興味のある資料を一つ選び、資料から分かることを考えてまとめることができる。

子どもたちの多様な考えを引き出すため、教科書に加えて新聞から引用した資料を取り扱った。身近なテーマの資料（将来の夢、かごんま弁テストの正答率）、最新の資料を扱ったことで、子どもたちの関心を引き出すことができた。



③ 6年生の実践 社会「国の政治のしくみ」

ねらい… 国の政治のしくみを理解し、自分たちの生活に政治が関わっていることを実感することができる。

20歳から18歳に選挙権が引き下げになるということをおさえるために、新聞記事を使用した。記事を活用することで、選挙は遠いものではなく、自分たちにも関係あることを実感していた。

④ その他の実践

- ・ 4年総合「かごしまよかところ探検隊」で自分のテーマをもとに新聞で意欲的に調べていた。
- ・ 5年国語「天気を予想する」で筆者が伝えたいことを伝えるためには表やグラフを用いると説得力が増すことを学んだ。その学びが日常に生かされていること、論の進め方などの定着を図るために新聞記事を用いた。
- ・ 授業時や朝の会などで身近なニュースの紹介（口永良部島噴火、国民文化祭、冬至のゆず湯など）
- ・ 子どものうたの掲示
- ・ 説明文「アップとルーズ」（4年国語）を読んで、実際に新聞ではどのように写真が使われているかを紹介し、新聞を掲示した。
- ・ 国語・社会・総合的な学習の時間などで学習したことを生かして壁新聞にまとめられた。



4 取組の成果と課題

【成果】

- ・ ファミリーフォーカスの取組や校内の新聞記事の掲示などを通して、新聞を身近に感じてきている。
- ・ ファミリーフォーカスなどでは、発達段階に応じた写真や新聞記事を選び、それに

対しての自分の思いを表現することができた。

- ・ 新聞を購読していない家庭も多く、ファミリーフォーカスに取り組むことで、家族で新聞記事を読んだり感想を交流したりして、親子のコミュニケーションを図ることができた。

【課題】

- ・ 指定を受けてから職員構成が変わり、NIE 教育の実践への意識に差がある。教育課程や研修等に位置付け、全職員が共通実践していけるようにしていきたい。
- ・ 新聞記事を教材として活用することを負担に感じている職員が多い。継続して新聞活用ができるように、新聞活用、資料の精選・データ化・教材化などを図っていきたい。また、実践例などの紹介等も行っていきたい。
- ・ これまで取り組んできた活動を継続して実践していくだけでなく、情報交換を常に行い、効果が予想される取組を積極的に実践していきたい。